

近畿中国森林管理局 林野公共事業の事業評価第三者委員会議事録 (完了後の評価)

月 日： 平成19年7月18日(水) 13:00 ~ 14:30
場 所： 近畿中国森林管理局 大会議室
出席者： 委員長 大手 桂二
 委 員 大橋 慶三郎
 委 員 市川 亮
説明員： 森林整備部長、計画部長、企画調整室長、治山課長

[完了後の評価関係]

(市川委員)

森林整備について、本数調整伐を施工されているが、今後、年数が経過し時期が来れば、また間伐等の施業を実施されるのか。

(橋本設計指導官)

本数調整伐の施工により林内の照度不足の改善、下層植生の回復等が図られ、造林木の成長も今後見込まれる。造林木の成長により林内が再度うっ閉し、同様の状況になれば、新たな事業として間伐等の施業を実施することとなる。

(大手委員長)

自然環境への影響について植生の回復だけでなく、最近は水性動物の移動等への影響も注目されるようになってきている。このため、上下流が連続するスリット式の治山ダムの施工等も計画してはどうか。

(治山課長)

治山ダムの多くは、常水の少ない上流域で土砂を固定し、崩壊、浸食の発生を防止する役割を果たしており、このような箇所はスリット式はなじみにくいかと考えている。

しかしながら、動物への配慮も重要と認識しており、常水の多い等の場所の条件に応じて魚道の設置やスリット構造の採用もあると考えている。

また、技術開発の成果などは積極的に取り入れていきたいと考えている。

(大手委員長・大橋委員・市川委員)

資料の説明を受け、意見・提起をさせていただいたが、第三者委員会として、完了後の評価について検討委員会が作成された評価(案)で異議はない。

なお、本日申し上げた意見が、今後の事業に反映されることを期待する。